



Libra I on

開館してから今までのこと

スケジュールカレンダーつき

巻頭インタビュー
Libra影の仕事人 成瀬俊洋氏

vol. 2



影の仕事人

成瀬俊洋氏 総務管理課 課長 インタビュ

Libra開館から早くも4ヶ月が過ぎました。
館全体を陰から支える
縁の下の力持ちが総務管理課です。

Libraが昨年11月にオープンしてから、早くも4ヶ月が過ぎ、暖かな日差しとともに初めての春を迎えようとしている。

開館初日より多くの来館者に親しまれ、おかげさまで延べ来館者数が、46万5千人を越した(2月15日現在)。平日でも、3千から4千人の方がLibraへ足を運んでいる。

「予想よりも来館者が多くて、なんでこんなに多いんだろう? というのが正直な感想です」昨年4月から総務管理課長としてLibraに関わることとなった成瀬さんは、開口一番、来館者の多さとその様子を語られた。

「PRするまでもなく、口コミでたくさんの方が来てくださっている。きっと、高校生なんかはメールでピッと『いい所できたよ』と伝え合っ集まってきているんじゃないかな。以前の図書館は岡崎高校の子が多かったけれど、場所的に中央になって来やすくなったため、ここだといい制服の子が来ている。

施設が広いことや、建物が低層なのも来館者が多い理由かな。華イスの方やお子さん連れのお母さん方も、広いので気兼ねなく来れる。団塊の世代がお父さんお母さんを連れて来ているのも、よく見る」

かつては図書館などの公共施設にあまり訪れていなかった層が、新しい施設への物珍しさも手伝ってか、たくさん館内で見かけられる。こうして来館者が多いことは、嬉しい反面、今後どうしようか不安という本音も成瀬さんにはある。

成瀬さんのお仕事は、施設の管理。備品や建物の修繕などの維持管理、空調、温度管理、駐車場管理、図書館や市民活動などLibra内の他の課の総合調整など、よその課に属さない事全てを8人の仲間で行っている。要は、なんでも屋さん。

しきりと「目立たないところで気づかない役」「黒子」「前に出るじゃなく、陰の存在」「縁の下」「表に出るはいけない」と、同じような内容の言葉をインタビュー中何度も口に、ついには「私は黒子に徹したいので、ここでも顔は出しません」と写真の掲載を断られた。

「イベントや、市民の皆さんの活動が花形。例えば、掃除がキレイにされていれば、次に使う人もキレイに使って、ゴミを置いていかない。だからキレイな状態を維持していくことが私達の仕事。か

と云って、これ見よがしに、掃除していきます、と目立ってもいけない。みなさんが気持ちよく来て、気持ちよく帰れるように努めるのが仕事。何事もなく、安全に、みなさんがここに見えて、居心地の良い施設だと感じられるように、常に気を配っている。

もちろん、たった8名の仲間では、これだけ広い施設を管理することはできないので、掃除や、駐車場の警備、空調など、各専門の業者さんに頼んでやってもらっている」

「車の事故が一番心配。年配の方から、とても小さなお子さんまで、いろんな層がいらっしゃるの、駐車場などで何も起こらないように、今日も安全に一日無事で終わりますように、と毎日思っている。

また、イベントの度に駐車場前が一杯になって信号で並んだりするのを、どう回避していこうか考えている。これからLibra開館後初めて経験する、桜まつりや花火大会が不安。警備員は足りるのか、混雑で事故やケガなど起きないだろうか……」

心配性である。でも、そういった心配性で生真面目な性格の人が居ることによって、様々な問題が先回り回避される。

私達が日々、安心・安全・快適に利用することができるのも、こうした見えなところで支えてくださっている方々の存在のおかげである。ありがたい。

「せっかくオシャレな建物になったのだから、スマートに行きたい。これからは、利用者のマナーも問われていくと思う。

お堀通りのテーブルで親子連れや友達同士が、しゃべりながらお昼ごはんを食べている様子はとてもほほえましく思う。一方で、施設内で食べるのは良くない、と言ってくる市民の方もいる。

同様に、以前は玄関に灰皿が置かれていたが、タバコを吸わない利用者からの声によって設置場所を移動させた。たくさんの方が居る分だけ、多様な意見があり、全てを叶えることは不可能。

利用者同士が、お互いに気持ちよく使えるよう気遣っていけると一番良い。行政側から〇〇禁止といった一方的なルールでしぼるようなことは、極力したくない」

演劇に例えるならば、Libraは舞台である。そこで何を演じて、どのように魅せるかは、私達利用者の力にかかっている。さしずめ、舞台を整えるのが行政の仕事であれば、主役を務めるのは市民の皆

さんであり、脇役として登場するのがらサポータークラブである。

そんな事を、成瀬さんのお話を聞きながら思った。今後、主役である市民一人ひとりが、どのようにLibraを活用し、新しい物語を紡ぎ出していか楽しみである。

「図書館を核とした施設にしたため、リピーターが多い。大人と子どもを分けたのも良かった。若いお父さんがお子さん連れて来ている。むかし館では『お父さんが小さい頃は、この辺は今と違ってね……こういう生活をしてたんだよ……』といった、子どもと親、おじいちゃん、おばあちゃんとの会話がよく聞かれる」

既に、今までにはなかった新しい物語が生まれている。こういった、ささやかでも温かな場面が、時を経るごとに沢山増えていくことを成瀬さんは期待する。

実は成瀬さん、仕事ではなく、プライベートで図書館に入ったことは、まだ無いそうだ。「定年退職したら、孫を連れてアイスクリームでも食べながら、ぶらっと来て、ぶらっと帰りたい。何かをするじゃなく、待ち合わせ場所や、ちょっと立ち寄る場所がいいじゃないの。みんなの集合場所になって、ここを拠点としてまじに遊びに出て行ってほしい」と、ご自身とLibraの夢を語る。残念ながら、まだお孫さんはいないようなので、成瀬さんがLibraでの物語の主役となるのは、もう少し先のようなのである。

「趣味は何ですか?」と尋ねたところ「僕は芸術家だよ」との返事だったので、どのジャンルでどのような作品を作っているのか聞いてみた。

「百姓。米づくり。手刈りで、ハザをかけて。機械を使わず大体の作業は全て自分の手で行っている。生命をこの手で生み育てるというのは、最高の芸術だよ。

しゃべらないけど、手をかけただけ育ってくれる。収穫の喜びは、何にも代えがたいね」と、笑顔で答えてくれた。

作品は他にもあり、もち米、にがうり、里芋、紅芋、ウコン、下仁田ネギ……と、色々作ってらっしゃる。毎朝 4時から5時には起きて畑の顔を見て、犬の散歩をしてから出勤するのが日課だそうです。

地味な作業だが、毎日丁寧に手をかけなければ田畑は育たない。そこに、成瀬さんの仕事への姿勢と相通じるものがある。

2008年11月1日にLibraが開館してから、約4ヶ月が過ぎました。初めの3日間だけで、延べ33529人の来館者を数え、その後も多くの市民の方々に訪れていただいています。

オープニングということでたくさんイベントがある中、市民主導のイベントも数多く見られました。りぶらサポータークラブも11月8日に正式に設立され、開館前から準備してきた数々の企画を実現させました。全てをお見せすることはできませんが、ここで簡単に写真と文字で、どのようなことが行われてきたのかご報告させていただきます。

Libraフォーラム

2008年11月8日(土) 14:00~17:30 @103会議室

第一部 幻燈会~Libraができるまで~

Libraの基本設計ワークショップの初回から、コーディネーターおよび専門家として関わってきた延藤安弘氏により、ワークショップの様子が幻燈会(2台のスライドプロジェクターを用いて、独特の口調で語っていく)で紹介された。幻燈の最後は、絵本「図書館ライオン」で締めくくられた。奇しくも、りぶらサポータークラブのオリジナルマスコットもライオンであり、絵本の内容とりぶらサポータークラブの在り方がオーバーラップし、今後の方向性を示すものとなった。



第二部 りぶらサポータークラブ設立総会

幻燈会の中で紹介されたワークショップに関わってきた市民メンバーが中心となり、「りぶらサポータークラブ」が設立された。設立総会では、設立趣意、会則案、役員案、事業計画案、予算案について説明がなされ、出席者全員により承認された。全ての議案が承認された後、質疑応答があり、りぶらサポータークラブのプロジェクト内容について具体的な内容が紹介された。

第三部 パネルディスカッション ~Libraの可能性を探る~

コーディネーター：延藤 安弘氏 パネラー：岸田 孝一氏 (Libra総合館長)
加藤 覚氏 (岡崎市立中央図書館館長)
小柳 英二氏 (市民活動総合支援センター長)
山田 美代子氏 (りぶらサポーター代表)

Libraの可能性を、それぞれ「交流の場としての可能性」「生涯学習の中での図書館の可能性」「居場所としての可能性」「市民参画の可能性」という切り口でパネラーの面々から語っていただいた後、会場内の観客も参加しながらのフリーディスカッションとなった。活発な議論により、公共施設運営における市民参加、市民と行政とのパートナーシップの方向性が見えてきた。その中で、りぶらサポータークラブの役割や今後のあり方が確認された。最後、コーディネーターの延藤氏によるまとめで7つのキーワードが出された。

①最大の夢、最小のルール ②今までなかった図書館活用を提案…市民活動の展開へ ③笑い声がひびく、多様な市民層 ④意表をつく問いに対する情報の収集と提供…岡崎学を深める ⑤使い方をも多様に展開し、創造と生活を高める ⑥難しい問題は、提案し、対話し、ときほぐしていこう ⑦具合の良い協働は思いを出し合い、得意技を出そう!

各キーワードの頭文字をつなぐと「さ・い・わ・い・つ・む・く(辛い紡く)」となり、施設のこれからについて願いを込めてある。



世界のお茶

2008年11月1・2・8・9日(土・日)
@301会議室

2008年11月8日(土) @和室
日本のお茶



詩の朗読と四重奏

2008年11月9日(日)
@301会議室

コラボレーション



「図書館にホールに創作室に……複合施設だからこそ、違う分野のものが出会って何か一緒にできるといいね。国際交流センターもLibraに入るから異文化交流もしたいね」Libraが開館するずっと前から、そんな市民の声が聞こえていた。オープニングイベントに来た方を世界各国のお茶でもおもてなし。絵本とハーブ、ロシアンティーとロシアの楽器。Libraならではの、市民ならではのオリジナリティー溢れる組み合わせによる夢のコラボレーションが実現!



バードハウス・バードフィーダー展

2008年11月20日(木)~24日(月) @303会議室



撮影：愛知産業大学小杉研究室 http://www.asu.ac.jp/kosugi/project2_5.html

「プチ・バードサンクチュアリ作りのための“バードハウス・バードフィーダー展”と関連して11月23日(日)には、バードハウス研究家の井筒明夫先生の講演会とバードハウス作成ワークショップを制作室で行った。

展示会の会場構成・設営とワークショップの準備・当日サポートは愛知産業大学小杉研究室の3年生が中心となっており、学生と市民の協働によって実現したイベントである。ワークショップ参加者の15組の親子は慣れない作業に戸惑いながらも、楽しそうにバードハウスを作っていた。その一部の作品はLibra西側の木にかけられている。<http://www.wild-bird.info/birdhouse/>

ユニバーサルツアー

2008年11月8日(土)～11日(火)

「ユニバーサルデザイン」という言葉があるが、これは、高齢であることや障害の有無にかかわらず、全ての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間をデザインすることであり、右のような7つの原則がある。

Libraは基本的にバリアフリーで施設デザインがなされているが、本当に必要なのは心のバリアフリー。そんな思いで「Libra館内をいろいろな立場になって体験しよう!」と、高齢者・視覚障害・車椅子・子育て、の4つの立場を疑似体験しながら館内全体を歩き回る「ユニバーサルツアー」と、点字点訳・聴覚障害体験コーナーを設けた。

ツアー参加者には、体験後に館内マップに意見や感想を貼って貰った。

「初めてで楽しかった」「いい体験をさせていただきました」といった感想や、「階段を降りるときの不安感が分かった」「点字をもっと覚えて、ボランティアで役に立ちたい」といった意見があげられた。

- 1 **どなたでも公平に使えること**
- 2 **使う上で自由度が高いこと**
- 3 **使い方が簡単で、すぐに分かること**
- 4 **必要な情報がすぐに分かること**
- 5 **うっかりミスが危険につながらないこと**
- 6 **身体への負担が少ないこと(調い力でも使えること)**
- 7 **接近や利用するための十分な大きさと空間確保すること**



りぶらサポータークラブ プロジェクト募集説明会

2008年12月13日(土) @103会議室

りぶらサポータークラブが平成21年度に行うプロジェクトを公募するにあたって、説明会を行った。約40人の市民の方が、新しくできたLibraでの活動に期待を寄せながら参加された。

1月末の締め切りまでに、新規・継続あわせて23のプロジェクトが応募され、これらの中から、りぶらサポータークラブとして新年度からどのように活動を行うか、現在準備中である。

Libraの施設活用状況や利用者行動観察から、どういったことがLibraに求められているだろうと考える研究系のものから、ボランティア育成やLibraオリジナルノベルティグッズの企画、また、音楽や映画、調べ学習などのLibraを活用した生涯学習講座の運営などまで、多様な企画が応募された。



冬のコンサート

2008年12月20日(土) @お堀通り

お堀通りでコンサートを行うのも、大きなものを展示するのも、初めは不可能かと思われた。図書館で静かに本を読みたい人からクレームは出ないだろうか、展示作品が万一落下したら危険ではないだろうか……。

それでも「やりたい!」と思ったら、実現可能な方向へ進めていくのが市民の底力。結果、どちらも大成功!美しい歌声が建物いっぱいに響き渡り、多くの人が足を止めて聞きほれた。



空き缶ドルナイト

2008年12月21日(日) @創作室、プロムナード



夏至と冬至の日に「電気を消してスローな夜を」と2003年から始まった全国的イベント「100万人のキャンドルナイト」。冬至のこの日、Libraと東区関から続くプロムナードもライトダウンをしました。空き缶で作ったキャンドルスタンドに火を灯し、幻想的なひとときを過ごしました。

3月1日(日)

- ベアストレッチング
●10:00～12:00 ●スタジオ ●参加無料(要参加申込)
- 新米コック・おとこの料理教室Ⅱ
●10:00～12:00 ●調理室 ●600円(要参加申込)
- プリンセス岡崎選考会
●13:00～ ●ホール
- Libra演劇ワークショップ(レッスン)
●午後 ●ホール・スタジオ ●要参加申込

3月3日(火)

- 読み聞かせ
●11:00～11:30 ●お話の部屋 ●参加自由

3月5日(木)

- 読み聞かせ
●11:00～11:30/16:00～16:30 ●お話の部屋 ●参加自由
- 調べ学習講座
●11:40～16:00 ●101会議室 ●参加無料(要参加申込)

3月6日(金)

- マンスリーイングリッシュ(パキスタン)
●18:30～20:30 ●LICC ●500円
- 蘆田公園再整備ワークショップ
●19:00～20:30 ●3階会議室

3月7日(土)

- 読み聞かせ
●14:30～15:00 ●お話の部屋 ●参加自由
- レコードコンサート
●19:00～20:30 ●ジャズコレクション展示室

3月8日(日)

- ベアストレッチング
●10:00～12:00 ●スタジオ ●無料(要参加申込)

3月9日(月)

- チャットサロン(スペイン語)
●14:00～16:00 ●LICC

3月10日(火)

- 本を楽しむ会
●10:00～12:00 ●102会議室 ●参加無料(要参加申込)
- ことばの教室(ポルトガル語)
●10:00～12:00 ●LICC
- 読み聞かせ
●11:00～11:30 ●お話の部屋 ●参加自由

- 「妊娠前準備と胎内からの子育て」教室
●10:30～12:00/13:30～15:00 ●和室 ●500円

3月12日(木)

- 毛糸モチーフのひざ掛け作り
●10:00～14:00 ●活動コーナー ●参加自由・無料
●編み物初心者でも大丈夫です。おしゃべりしにきませんが。
- 読み聞かせ
●11:00～11:30/16:00～16:30 ●お話の部屋 ●参加自由

3月13日(金)

- はなみずきコーラス体験会
●10:00～ ●スタジオ ●参加無料
- ゴスペル
●13:30～ ●スタジオ ●参加無料
- 渡辺貞夫カルテットコンサート
●19:00～ ●ホール ●4000円

3月14日(土)

- 外国語による絵本の読み聞かせ(英語)
●13:00～13:30 ●お話の部屋 ●入場無料
- 読み聞かせ
●14:30～15:00 ●お話の部屋 ●参加自由
- まぼろしのプライベートテープを聴く
●15:00～17:00 ●ホール ●入場無料(要参加申込)
- レコードコンサート
●19:00～20:30 ●ジャズコレクション展示室

3月15日(日)

- ベアストレッチング
●10:00～12:00 ●スタジオ ●参加無料(要参加申込)
- 子供のクッキング
●10:00～12:00 ●調理室 ●1200円(要参加申込)

3月17日(火)

- 読み聞かせ
●11:00～11:30 ●お話の部屋 ●参加自由
- ことばの教室(ポルトガル語)
●10:00～12:00 ●LICC

3月19日(木)

- 男の料理教室
●10:00～12:30 ●調理室 ●1470円(要参加申込)
- 読み聞かせ
●11:00～11:30/16:00～16:30 ●お話の部屋 ●参加自由

3月21日(土)

- Libra演劇ワークショップ(舞台づくり・レッスン)
●9:00～/13:00～ ●ホール・スタジオ ●要参加申込
- 読み聞かせ
●14:30～15:00 ●お話の部屋 ●参加自由
- レコードコンサート
●19:00～20:30 ●ジャズコレクション展示室

3月22日(日)

- ベアストレッチング
●10:00～12:00 ●スタジオ ●無料(要参加申込)

3月24日(火)

- ことばの教室(ポルトガル語)
●10:00～12:00 ●LICC
- 読み聞かせ
●11:00～11:30 ●お話の部屋 ●参加自由

3月26日(木)

- 読み聞かせ
●11:00～11:30/16:00～16:30 ●お話の部屋 ●参加自由
- 愛は国境を越えて
●14:00～ ●ホール ●3000円
- むかしばなし・紙芝居
●16:30～17:00 ●むかし館 ●参加自由

3月27日(金)

- はなみずきコーラス体験会
●10:00～ ●スタジオ ●参加無料
- ゴスペル
●13:30～ ●スタジオ ●参加無料

3月28日(土)

- Libra演劇ワークショップ
●午前(舞台づくり)/午後(リハーサル) ●要参加申込
●ホール・スタジオ
- 読み聞かせ
●14:30～15:00 ●お話の部屋 ●参加自由
- レコードコンサート
●19:00～20:30 ●ジャズコレクション展示室

3月29日(日)

- Libra演劇ワークショップ
●午前/ゲネプロ、リハーサル ●ホール・スタジオ
●15:00～/発表 ●ホール ●入場自由

4月11日(土)

- りぶらサポータークラブ・H21年度プロジェクト紹介
●13:30～16:30 ●301～303会議室 ●参加自由・無料

4月14日(火)

- 教室「布ナプキンを作りながら健康について学ぼう」
●10:30～12:00 ●和室 ●1500円(材料費)
- 教室「ピラティスで体の声を聴こう」
●13:30～15:00 ●和室 ●2000円

4月25日(土)

- 講演会「感性を育む子育て」
●12:30開場/13:00～開始 ●301～303会議室 ●2000円

各種活動団体のみなさまへ

りぶらサポータークラブは、Libraの活用促進、市民活動の活発化と相互ネットワークの構築、市民の生涯学習支援を目的として活動しております。そのため、この「Libra I on」のイベントスケジュールページも、ぜひ皆様にご活用いただけたらと思っております。

Libra内で行う、イベントや講座などありましたら、チラシ等の資料を添えて以下の要領でぜひお知らせくださいますよう、お願い申し上げます。

- ①講座・イベント名
 - ②日時
 - ③場所
 - ④参加費の有無と金額
 - ⑤事前申込の要・不要
 - ⑥問い合わせ先(電話番号、メールアドレス、名前)
 - ⑦主催者
 - ⑧内容
 - ⑨その他
- 以上を明記し、りぶらサポータークラブ事務局へスケジュール記載依頼をしてください。(発行時期により、掲載されない場合があります。)

りぶらっこ☆ふぁみりー通信

*「りぶらっこ☆ふぁみりー」は、りぶらサポートクラブ内のプロジェクトから立ち上がった託児支援グループです。このページは、2ページあるオリジナルの「りぶらっこ☆ふぁみりー通信」から一部抜粋したものです。



定期託児の開始

11月10日(月)より、Libra乳幼児室での定期託児が始まりました。これは、開館1年半前から「Libraで、イベント時のみでは無く日常的な託児が欲しい」と市民グループが準備を進め、市民と行政との協働で実現したものです。

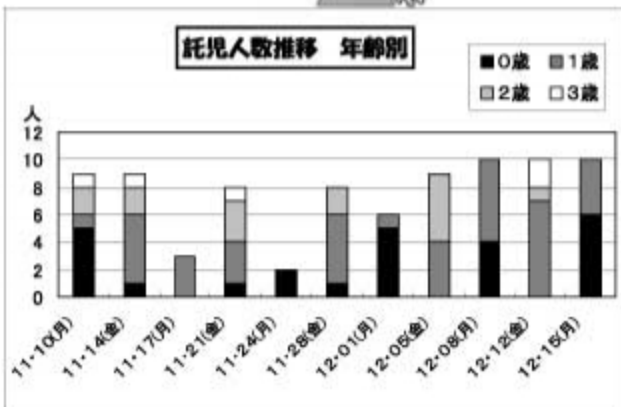
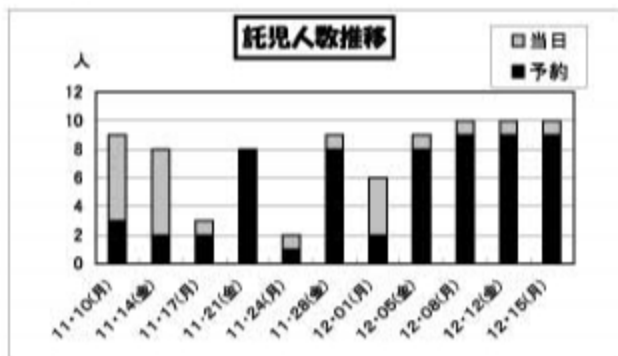
初日は「託児を見学、体験してもらおう」ということで、同じ乳幼児室内で親子で遊ぶのも良いし、託児に預けてもいいとしました。しかし、親子で遊ぶ方と託児を一緒にすると危険だということがわかり、2回目から、託児の時間内は親子での入室を断らせていただく事にしました。また、託児があることに気付かず、遊びに来られる方たちに入室を断るのは申し訳ない感じがしましたが、最近では託児のことが知れ渡り、断ることが少なくなってきました。



1月から有料になりましたが、どんどん予約が入っています。託児をされる子どもは毎回同じという訳ではないので、そのときの状況によって、楽な時、大変な時などいろいろです。気付いたことを伝え合い、改善しながら進めていくことで、よりよい託児になっていくことができると思います。

皆さんでより良い託児システムを作り上げていきましょう。

グラフでみる
11月10日から12月15日までの
託児の人数と
年齢別の推移



月 首が座ってからははいはいまで

金 たっちから未就園まで

毎週月曜と金曜の10:30~11:30
乳幼児室にて託児を行っています。
2階市民活動センターで予約受付中。



りぶら Libra

ちよっとしたはなし

Libraに関係あるような無いような
どうでもいいんだけど
知っているともちょっと面白い

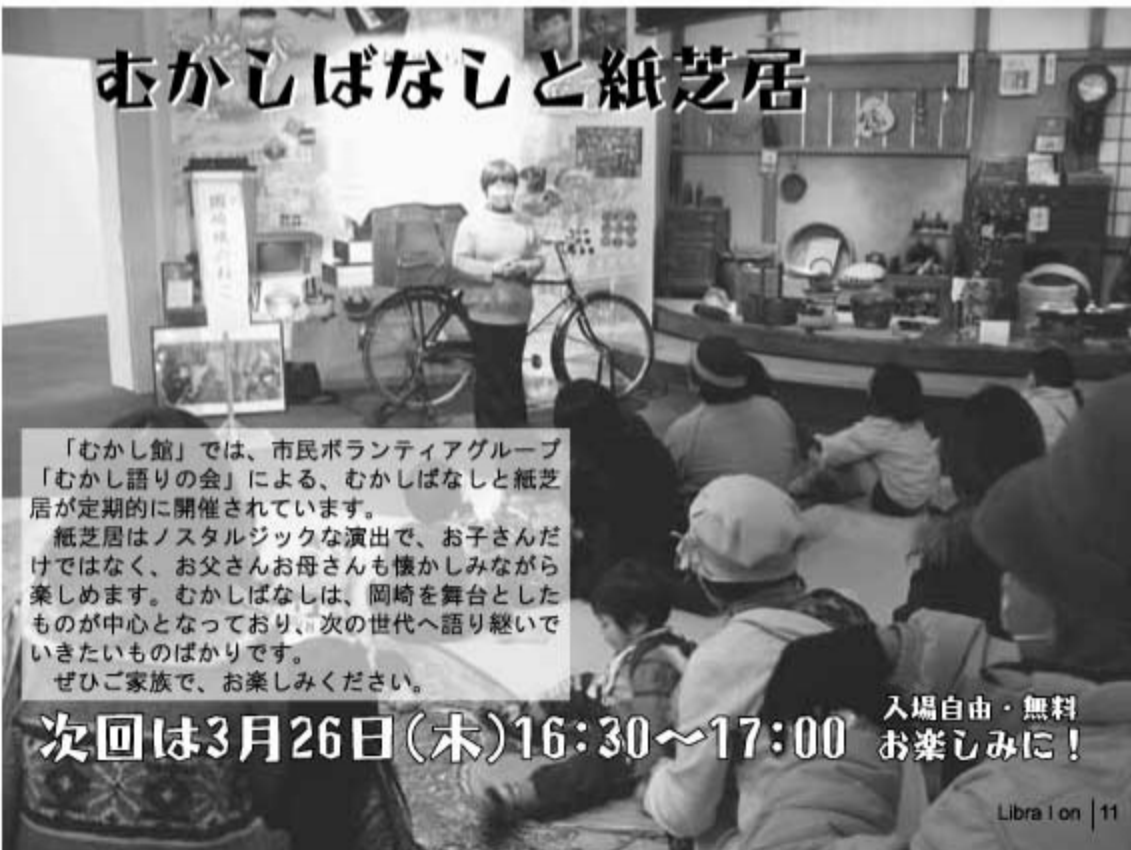
①

この広報紙「Libra I on」を年に2回、読んでくださってありがとうございます。実はこの広報紙、開館前にも別名で発行されていたのです。まあ、部数が少なかったのも、ご存知の方は少ないかと思われまふ。

初めて発行されたのはなんと！2006年の夏頃。当時「プラザNEWS」という名前でした。その創刊号を拝読してびっくりするのは、かなりのLibraマニアであること

を賞します。
誌面全体は何度かリニューアルしながらも、このコラム「りぶらちよっとしたはなし」は編集者の好みによってずっと同じスタイルで、2007年3月発行の「プラザNEWS vol.2」から続いてきたコーナーです。途中お休みもありましたが……。などとつらつら書いていたら文字数がそろそろ尽きてしまいました……。これからもよろしくお願ひします。

むかしばなしと紙芝居



「むかし館」では、市民ボランティアグループ「むかし語りの会」による、むかしばなしと紙芝居が定期的に開催されています。紙芝居はノスタルジックな演出で、お子さんだけでなく、お父さんお母さんも懐かしみながら楽しめます。むかしばなしは、岡崎を舞台としたものが中心となっており、次の世代へ語り継いでいきたいものばかりです。ぜひご家族で、お楽しみください。

次回は3月26日(木)16:30~17:00 入場自由・無料 お楽しみに!

「りぶらサポータークラブ」のご案内

この広報誌「Libra 1 on」はりぶらサポータークラブによって作られています。りぶらサポータークラブとは、Libraの活用と利用者の活動や市民の生涯学習をサポートしようという市民グループです。

私たちは岡崎市図書館交流プラザ・Libraの開館に向けて、平成16年度から17年度にかけての市民検討ワークショップで、設計・運営に関する話し合いをしてきました。話し合いを重ねる中で、市民の力でよりよい施設にしようとする気運が高まり、平成18年度より、りぶらサポーター活動が開始しました。

りぶらサポーター活動を始めるにあたっては、「市民が気軽に訪れ、楽しく学べ、周辺地域も活性化」するための企画・プロジェクトを立ち上げました。また同時に、Libraを魅力的な施設にするためには、行政・企業などとの連携・協働の必要性も感じ、そのための体制づくりを考えてきました。

こうした一連の流れを受継ぎながら、これまでのサポーター活動をきちんと組織化し、行政との両輪でLibraを盛り上げることのできる「りぶらサポータークラブ」が昨年11月8日に正式に設立されました。このクラブの主体は市民です。皆様にもぜひ仲間になっていただき、企画の提案からちょっとした作業のお手伝いまで、それぞれが力の発揮できる場面で共にLibraの発展と地域の活性化を実現していきたいと思えます。

現在、新年度の活動に向けて準備中です。

毎週火曜日
14時～16時
Libra活動コーナーで
事務局開設中！
気軽に寄って行ってね！



リブライオン(LIBC)



所在地：岡崎市康生通西4丁目71番地
駐車場：約300台 施設利用者は3時間まで無料
(それ以降30分100円)
駐輪場：約300台 無料
名鉄 名古屋本線東岡崎駅より北西へ徒歩約20分
名鉄 名古屋本線岡崎公園前より北東へ徒歩約15分
最寄の駅(名鉄)までは
【名古屋】→(32分)→【東岡崎】
【豊橋】→(25分)→【東岡崎】
東名高速岡崎インターより 国道1号線西へ車で約10分

会員募集

この会の趣旨に賛同し、お力添えをいただける方は、ぜひご入会ください。また、会の目的を達成するために、賛助・協力してくださる方々のお力が必要です。何卒、私たちの趣旨をご理解いただき、絶大なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

- (1) 個人会員：年会費2,000円
- (2) 団体会員：年会費2,000円
- (3) 賛助会員：1口1,000円(何口でも、随時)

年会費の期限は4月1日から翌年の3月31日とし、賛助会費は随時受け付けます。年度途中の入会における年会費については、9月末日以降の入会をもって半額とし、納入された会費は返却しないものとします。

年会費は名簿の作成、通信費などの会の運営費として使用し、賛助会費は会の運営費を補うほか、事業実施などの経費として使用します。

表紙写真説明：11月1日から12月20日までLibra来館者に協力を求めながら、市民ボランティアグループが中心となって毛糸を編み、つなげた巨大アート作品です。Libraのロゴを中心に、鳥や花などで開館を祝う気持ちが表されています。1月中、お通わりで表示されていました。現在は解体され、福祉施設などに寄付するため、むざむざに編み直し中です。

発行・編集 りぶらサポータークラブ
「LibraNews」プロジェクト

お問い合わせ：りぶらサポータークラブ事務局

(原口 Libra2階 市民活動センター)

電話：0584-23-3114 Fax：0584-23-3142

E-mail：info@okazaki-lita.com

(Fax、メールは件名に「りぶらサポーター活動」と明記ください)